創世記15章17－21節 「エジプトの川から大河ユーフラテスまで」

1A 世界に対するご計画

1B 信仰による義

2B 一方的なご契約

2A 聖書の舞台

1B エデンの園

2B 悪の勢力

1C ユーフラテス川

2C エジプト

3B 回復する第三の国

3A ダビデの幕屋の回復

1B 統一王国

2B 異邦人の時

3B 試みの帰還

4A ユダヤ・キリスト・イスラムの歴史

1B キリスト教の広がり

2B イスラム教の広がり

3B シリア内戦（2011-2024 年）

1C イスラム過激派＋トルコ

2C アサド政権＋露イラン

3C クルド人とドゥルーズ＋米イスラエル

5A エゼキエル戦争

1B イスラムによる敵意

2B イランによる敵意

3B トルコによる敵意

4B ロシアの野望

本文

あけまして、おめでとうございます。新年において、私たちキリスト者が心に留めたいのは、「時を知る」ということです。聖書では、主ご自身が、私たちが今、自分たちの生きている時代を知ることを教えておられます。時代のしるしを見ていなかったので、時のユダヤ人指導者たちは、神の訪れ、キリストが来られたことを見失ってしまいました。そしてキリスト者自身も、眠りからさめるべき時がもう来ていると、パウロは言っています。「ロマ 13:11 さらにあなたがたは、今がどのような時であるか知っています。あなたがたが眠りからさめるべき時刻が、もう来ているのです。私たちが

信じたときよりも、今は救いがもっと私たちに近づいているのですから。」

今朝、注目したい聖書箇所は創世記 15 章 17-21 節です。「17 日が沈んで暗くなったとき、見よ、煙の立つかまどと、燃えているたいまつが、切り裂かれた物の間を通り過ぎた。18 その日、【主】はアブラムと契約を結んで言われた。「あなたの子孫に、わたしはこの地を与える。エジプトの川から、あの大河ユーフラテス川まで。19 ケニ人、ケナズ人、カデモニ人、20 ヒッタイト人、ペリジ人、レファイム人、21 アモリ人、カナン人、ギルガシ人、エブス人の地を。」」

1A 世界に対するご計画

これは、主がアブラハムに、契約を結び、約束を与えた部分です。ここにあるように、土地を所有する約束であり、それは、エジプトの川からユーフラテス川までだと言います。

1B 信仰による義

私たちは普通、この約束が今に、特別に関係しないと思います。けれども、それがいかに間違いかは、創世記 15 章全体を見れば明らかです。それは、私たちが良く知っている、主がアブラハムに与えられた約束、信仰による義があるからです。「15:5-6 そして主は、彼を外に連れ出して言われた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。」さらに言われた。「あなたの子孫は、このようになる。」6 アブラムは【主】を信じた。それで、それが彼の義と認められた。」主が、この約束を下さった後に、契約を結ばれてこの土地の約束をくださっているのです。もし、信仰による義が今も有効であれば、こちらの土地の約束も有効なのです。

そして、このことをパウロはロマ 4 章で語っています。アブラハムに与えられた信仰の義ですが、それを語った後に、13 節、「世界の相続人になるという約束が、アブラハムに、あるいは彼の子孫に与えられたのは、律法によってではなく、信仰による義によってであったからです。」と言っているのです。神の前で、義とみなされているということが、世界の相続に直結しているのです。私たちは、救いと言えば、死んだ後に天国に行って楽をするというものであれば、神のご計画のごくごく一部しか見ていないのです。神の国が到来し、それを受け継ぐというのが救いの主要な部分です。

2B 一方的なご契約

そして創世記 15 章には、信仰の義の約束を与えられた後に、神は、一つの儀式を行われます。「15:7-11 主は彼に言われた。「わたしは、この地をあなたの所有としてあなたに与えるために、カルデア人のウルからあなたを導き出した【主】である。」8 アブラムは言った。「【神】、主よ。私がそれを所有することが、何によって分かるでしょうか。」9 すると主は彼に言われた。「わたしのところに、三歳の雌牛と、三歳の雌やぎと、三歳の雄羊と、山鳩と、鳩のひなを持って来なさい。」10 彼はそれらすべてを持って来て、真っ二つに切り裂き、その半分を互いに向かい合わせにした。ただし、鳥は切り裂かなかった。11 猛禽がそれらの死体の上に降りて来た。アブラムはそれらを追い

払った。」

神は、当時、行なっていた契約を取り交わそうとされています。それは動物を真っ二つに引き裂くことです。そしてその間を、契約を結ぶ双方が通り抜けます。そのことによって、「もしこの契約を破るなら、私はこのようになります。」という確約を表すためでした。まさに「血の契約」だったのです。それでアブラハムは、その準備をしました。

そして、その間を主が通られたのが、17 節に書いてあったのです。「日が沈んで暗くなったとき、見よ、煙の立つかまどと、燃えているたいまつが、切り裂かれた物の間を通り過ぎた。」ここで主ご自身は、たいまつによって通っておられます。しかし、アブラハムがこの切り裂かれたものの間を通っていないのです。神が一方的にこの契約を結んでおられます。神は、アブラハム側に条件を付けなかったのです！主が一方的に、契約を結ばれて、それでエジプトの川から大河ユーフラテスまでを、あなたに与えると言われました。

2A 聖書の舞台

1B エデンの園

この地域は、そもそも、神が初めに人を造られ、そしてご自身の園として与えられた地域です。エデンの園です。エデンの園から、ユーフラテス川が流れ、またエジプトのほうにも流れていたことを思い出してください。「創 2:10-14 一つの川がエデンから湧き出て、園を潤していた。それは園から分かれて、四つの源流となっていた。11 第一のものの名はピション。それはハビラの全土を巡って流れていた。そこには金があった。2 その地の金は良質で、そこにはベドラハとショハム石もあった。13 第二の川の名はギホン。それはクシュの全土を巡って流れていた。14 第三の川の名はティグリス。それはアッシュルの東を流れていた。第四の川、それはユーフラテスである。」ピションとギホンは、アラビアやアフリカ方面を流れていたとされています。そして、ティグリスとユーフラテス川が今のイラクを走っていますが、上流はトルコからです。そして、ユーフラテス川の中流はシリア北部を走っています。

2B 悪の勢力

思い出していただきたいのは、神のご計画を阻むため、悪の勢力がユーフラテス川やエジプトから始まっていたことです。

1C ユーフラテス川

エデンの園で、エバを惑わしたのは蛇です。そして、バベルの塔を建てたのは、シンアルの地で、ユーフラテスの下流地域です。そこにあったウルの町から、主はアブラハムに、出ていきなさいと命じられました。そして、バビロンがそこから起こりました。そして黙示録を見れば、ユーフラテス川の流域から悪霊どもが出て来て、また東からの王たちがハルマゲドンに集まってきます。バビロン

も、悪霊の巣窟の都として終わりの日に建っています。

2C エジプト

エジプトは、世の富と豊かさを象徴しています。アブラハムが、飢饉があったので約束の地から離れて、エジプトに下りました。そして、イスラエル人たちがそこで奴隷となり、ファラオが労役で苦しめていました。イザヤ書には、エジプトがラハブと呼ばれ、それが竜とも呼ばれています。「51:9 目覚めよ、目覚めよ。力をまとえ、【主】の御腕よ。目覚めよ。昔の日、いにしえの代のように。ラハブを切り刻み、竜を刺し殺したのは、あなたではないか。」イスラエルにとって誘惑のところとなり、奴隷の使役をした国は、その背後に悪魔が働いていました。

3B 回復する第三の国

そのように、神のご計画が始まったところを、悪魔の勢力が邪魔をしている中で、主がここ全域を回復して、ご自身を礼拝するようにされるのが、救いの完成の姿として、幻が与えられています。イザヤ 19 章です。「19:23-25 その日、エジプトからアッシリアへの大路ができ、アッシリア人はエジプトに、エジプト人はアッシリアに行き、エジプト人はアッシリア人とともに主に仕える。24 その日、イスラエルはエジプトとアッシリアと並ぶ第三のものとなり、大地の真ん中で祝福を受ける。25 万軍の【主】は祝福して言われる。「わたしの民エジプト、わたしの手で造ったアッシリア、わたしのゆずりの民イスラエルに祝福があるように。」」アッシリアは、バビロンが台頭する前、イラク北部のニネベを都とする国です。ですから、エジプトの川からユーフラテス川までが、主を礼拝する一帯となるのです。

日本のキリスト教会では、こういう約束について、「米国の福音派発の神学だ」とか、訳の分からない批判をしますが、この全域には、キリスト教が始まってから間もなくして生まれた教会の人々がいるのです。イラクには、アッシリア人キリスト教徒がいます。シリアには、アラム語を使って礼拝するキリスト教徒がいます。そしてエジプトには、コプト教があります。それぞれが、これらの預言をそのとおり、文字通り信じて、神の祝福を信じているのです。そして、それがあるべき聖書の捉え方です。もちろん、キリストにあって霊的に私たち個々人の生活に聖霊によって適用されます。けれども、文字通りに、それらについて書かれていることが、歴史的にも地理的にも実現します。

3A ダビデの幕屋の回復

1B 統一王国

そして、聖書において、アブラハムとの神の契約が、どのようになっているかを見てみましょう。主は、ダビデをイスラエルの王として立てられました。それまでは、約束の地にいたイスラエル人たちは、神への不従順にゆえ、周囲の民に虐げられていました。けれども、神の恵みによって、ダビデと共に主がおられて、周囲の民をダビデは制圧していきました。ペリシテ人、エドム人、モアブ人、アンモン人、そしてアラム人です。そして、アラムの北にあったハマテ王国も貢物を持ってきま

した。ハマテは、ユーフラテス川に接した国です。息子ソロモンが受け継いでから、彼はエジプトのファラオの娘と結婚して、エジプトからユーフラテス川までを自分たちの影響下に入れることができたのです。主が、アブラハムに約束されたところにまで影響力を及ぼしました。

2B 異邦人の時

ところが、ソロモンの死後、王国は分裂して、北イスラエルはアッシリアに、南ユダはバビロンによって滅ぼされました。その後は異邦人の支配の中に入ったのです。バビロン、ペルシア、ギリシア、ローマへと変遷しますが、異邦人の支配です。主イエスが来られましたが、ユダヤ人たちはこの方を拒み、それで紀元 70 年にエルサレムが破壊され、世界に離散します。

3B 試みの帰還

そして、エゼキエルは、試練の中で彼らが帰還してくることを預言していました。「エゼ 20:34 わたしは、力強い手と伸ばした腕、ほとばしる憤りをもって、あなたがたを諸国の民の中から導き出し、その散らされている国々からあなたがたを集める。」ホロコーストという過酷な苦難を経て、イスラエルの地にユダヤ人たちが戻ってきて、イスラエルが建国されました。そして今、その試練は続いていると言ってもいいです。

4A ユダヤ・キリスト・イスラムの歴史

今の情勢を見ますと、この地域に必ず関わっているのは、三つの宗教です。ユダヤ教、キリスト教、そしてイスラム教です。

1B キリスト教の広がり

ユダヤ人たちが世界に離散した後に、少数のユダヤ人たちは留まっていたものの、そこはローマが支配していました。しかしそのローマが、キリスト教化されました。そしてビザンチン帝国が始まります。エルサレムは、ビザンチンが支配しました。しかし、キリスト教は、聖書を誤って解釈して、ユダヤ人たちに対する神の約束は、教会によって実現する、ユダヤ人と教会は置き換わったのだという過ちを犯しました。

2B イスラム教の広がり

その後に、七世紀にイスラム教が台頭しました。イスラム教は、ユダヤ教、キリスト教の後、ムハンマドにアッラーが啓示を与えて、それでイスラムが支配しました。イスラム教は、基本、コーランこそが神のことばだと信じています。そしてユダヤ教、キリスト教はそこから道が外れたと信じています。そこが長らく、この地域を支配しました。最も栄えたのは、オスマン・トルコの時代です。その時、かつてローマが地中海全体を、北アフリカから中東、そして南欧を支配したように、そこを支配しました。

しかし、欧米列強が世界を支配して、この地域もイギリスとフランスが支配しています。しかし、その時期にユダヤ人たちがロシアや欧州から帰還してきます。そしてイスラエル国が 1948 年にできますが、そこで独立戦争が起こります。そして難民化した、アラブ諸国にいたユダヤ人たちが帰還していきます。そうやって、ここにユダヤ教の背景をもった人々が入ってきました。そのことをよしとしないのが、イスラム教です。自分たちが一度支配していたのに、なんでユダヤ人が？ということで、一切、ここを認めないというのが基本、イスラム教の考え方です。

このように、神の約束の地とその周辺は、霊の戦いの場となりました。その約束を教会のものに置き換えたキリスト教の中にある神学的な戦いがあり、またイスラム教はここにイスラエルがあってはならないと考えるのです。

3B シリア内戦（2011-2024 年）

そんな中で、2011 年、ちょうど私たち日本は東日本大震災を経験して、それで精一杯だった時に、アラブ諸国で、アラブの春という民衆の運動が起こりました。それで民主化されると言われていましたが、そうではなく、イスラムの教えをそのまま実行しようとするイスラム過激派が台頭することとなりました。そんな中で、シリア、すなわちユーフラテス川の流れるあの国に、アサド政権という独裁主義の国に、内戦が起こりました。

1C イスラム過激派＋トルコ

そこには、反政府運動に、イスラム過激派の組織がいます。それを後押ししているのがトルコの国です。クルド人が、トルコ国内にもシリアに住んでいますが、シリアのクルド人が独立しようとしてトルコのクルド人もその動きをするのを非常に恐れているからです。

2C アサド政権＋露イラン

そこに、アサド政権がどんどん押されて行き、倒れそうになっていました。ところが、ロシアが地中海までの影響力を保持したいのと、イスラエル残滅を国是とするイランが、同じくシリア、レバノンに、ヒズボラというイスラム過激派組織を通して、イスラエルを攻撃するために、アサド政権を後押ししました。

3C クルド人とドゥルーズ＋米イスラエル

そして、シリアの北東部、ちょうどユーフラテス川の東ですが、そこにクルド人の勢力があります。また、ガリラヤ湖の北東部のゴラン高原には、ドルーズ人が住んでいます。イスラエル側にも、シリア側にもいます。このクルド人とドルーズ人がイスラエルには親和的であり、欧米にも協力的なので、アメリカとイスラエルが連携しています。

アサド政権はこの内戦で、ほとんど倒れかけたのですが、今、話しましたようにロシアまたイラン

が全面支援して、態勢を取り戻し、それでアサド政権が支配的になってしばらく経っていました。

ところが、大きなことが起こりました。それは 2013 年 10 月 7 日に、ハマスがイスラエル領に侵入し、大虐殺をしました。次の日には、ヒズボラがレバノンから攻撃を始めました。そして、イエメンのフーシー派という、他のイスラム過激派組織がイスラエルを攻撃します。すべてイランが背後にいます。ついに、イランが直接、イスラエルにミサイル攻撃を始めました。そこで、イスラエルは徹底的に反撃します。ハマスも壊滅的になり、そしてすごいのは、ヒズボラが指導部がすべて殺されました。そしてイランに対して、イスラエルは、核施設の防衛網を攻撃して、それ以上の核開発がそこで当面、できないようにしました。

1979 年に、イランでは、イスラム革命が起こり、それによって、イスラムによる革命を中東全域に起こそうとしていました。それでイスラエルだけでなく、周辺アラブ諸国もイランを敵視しはじめました。そのイランが今、かなり弱体化したのです。そして、ロシアは 2022 年 2 月にウクライナを侵攻します。イランも、加勢します。その中で、シリアに残っていたイスラム過激組織が、一斉にアサド政権に攻撃を始めましたが、ロシアもイランも、アサド政権を助ける余力がなくなっていました。それで一気に、ダマスカスも制圧して、無欠入城したのです。それが去年 12 月、アサド政権が事実上、崩壊したのです。

今、中東全域にイランやロシアの影響力が薄くなり、トルコが変わって影響力を増していくであろうと考えられています。

5A エゼキエル戦争

そうです、エジプトの川からユーフラテス川までの全域で、これらのことが大体的に起こっているのです。主がアブラハムに約束された地に、このような大変動が起こっているということに注目してほしいのです。そこで改めて、エゼキエルの見た幻を知ってほしいです。終わりの日に、イスラエルを一気に攻めてくる国々は、この地域と、またその外側にいる国々なのです。39 章 1-6 節をお読みします。

1 次のような【主】のことばが私にあった。2 「人の子よ。メシェクとトバルの大首長である、マ
ゴグの地のゴグに顔を向け、彼に預言せよ。3 『【神】である主はこう言われる。メシェクとトバ
ルの大首長であるゴグよ。今、わたしはおまえを敵とする。4 わたしはおまえを引き回し、おま
えのあごに鉤をかけ、おまえと、おまえの全軍勢を出陣させる。それはみな完全に武装した
馬や騎兵、大盾と盾を持ち、みな剣を取る大集団だ。5 ペルシアとクシュとプテも彼らとともに
いて、みな盾を持ち、かぶとを着けている。6 ゴメルとそのすべての軍隊、北の果てのベテ・ト
ガルマとそのすべての軍隊、それに多くの国々の民がおまえとともにいる。

1B　イスラムによる敵意

ここにある国々の多くが、イスラム教を信じています。ですから、イスラエルと言う国があること自体を、否定したいと思っています。

2B　イランによる敵意

そして、ペルシアがいます。これはイランの古代名です。イランは、今のイスラム革命による政権は、イスラエルと言う国の残滅を国の目標に掲げています。

3B　トルコによる敵意

そしてベテ・トガルマと出て来ていますが、これがトルコです。トルコのエルドアン政権は、かつてのオスマン・トルコ帝国が再び復興することを野望に抱いています。

4B　ロシアの野望

そしてロシアが南下することを野望に抱いているのです。マゴグの地のゴグは、ロシアであると考えられます。メシェク、トバル、そしてマゴグはロシア南部です。

こうして、シリア内戦とその終結に関わっている国々がすべて、イスラエルに一斉に攻めてくるのに登場する国々なのです。私たちはゆえに、神の国が到来することにあたって、産みの苦しみをしていることに気づいてほしいのです。そして、主が再臨されたら、この地域全体が主のものになることを知ってほしいのです。エルサレムの平和のために祈れ、と、詩篇では命じられています。それは、エルサレムに戻ってこられる主のことを思い、この方の命令に従うこともすべて含まれています。この地域で起こっていることに目を離さず、主がこの地域を回復して、それで世界を神の者に取り戻し、それでキリストと共に統べ治めるという回復を、救いの完成を願います。